

■明け方の月に天使は踊る

【登場人物】高太郎・さなえ・司・理美・男・女

幕前。中央に高太郎がいる。手を後ろに組み、おだやかに周りを見ている。さなえが上手より入ってくる。手にはA4サイズの封筒

さなえ　いいんですか先生。主役がこんな所で油売ってて。
高太郎　おや、見つかってしまいましたか。
さなえ　司君、探してましたよ。
高太郎　パーティーというのはどうも苦手です。お祝いしてくれるのはありがたい
1
のですが、人が多すぎます。私はもともと身内だけの方が……。
さなえ　仕方ないですよ。今日の主催は出版社なんです。それなりに盛大にやらないと会社
の名に傷がつきますから。
高太郎　ふむ。そんなものですかね。
さなえ　あ、そういえば、二二の所バタバタしててキチンと挨拶してませんでしたね。

さなえ、姿勢を正して。

さなえ　先生。二の度は受賞、おめでとつございます。
高太郎　ありがとう。これも日々、さなえ君が支えてくれていたおかげです。
さなえ　いえ。私なんか何もしてませんよ。
高太郎　本当です。感謝しているんです。ありがとうございます。
さなえ　先生にそんなこと言われて、私、何を答えたらいんですか。
高太郎　それは……まあ……どういたしまして、じゃないですか？
さなえ　……じゃあ……どういたしまして。

高太郎、遠くを見る。

高太郎　早いものですね。さなえ君が私の助手をするようになって5年ですか。
さなえ　作品づくりを手伝わせて下さいなんていきなり訪ねた私を快く受け入れていただきま
2
した。
高太郎　快く……。
さなえ　違っんですか？
高太郎　いえ、まあ、えてして記憶というものは美化されるものです。
さなえ　ガーン。
高太郎　冗談ですよ。さなえ君がいてくれてとても助かっています。
さなえ　えー？そつですかー？

ちなえ、嬉しそうに照れる。手に封筒を掲げていたことを隠し出す。

ちなえ あ、これ。

ちなえ、封筒から原稿を取り出す。

高太郎 どうでしたか？

ちなえ はい、とても面白い作品でした。ひもつとしたら今までの作品の中で一番かもしれませんが、私的に、ですけど。

高太郎 そうですか。

ちなえ 同君も喜びますよ。今回の受賞に続いてベストセラ―間選りなしです。あ、今、返されても困りますよね。同君に直接渡しちやっただ方がいいですか？

高太郎 いえ、それは本にしません。

ちなえ え？

高太郎 それはあなたが持っていて下さい。

ちなえ ……どういふことですか？

高太郎 その小説はちなえ君のもので、ちなえ君の為だけに書きました。

ちなえ 私の？

高太郎 どうでしょう。受け取ってはもらえませんか？

ちなえ え、あの、……いいんですか？

高太郎 私がそれを望んでいるんです。受け取ってくれますか？

ちなえ はい。もちろん、喜んで。

高太郎 そうですか。

ちなえ ありがとうございます。この小説を私が一人占めなんてなんだか、バチが当たりそうですね。

高太郎 そんなことありませんよ。ただ、

ちなえ はい？

高太郎 その、おれというか、見返りを期待してはいけませんか？

ちなえ いえ、何でも言うて下さい。私で出来ることなら何でもします。

高太郎 そうですか……では、私と暮らして下さい。

ちなえ はい？

高太郎 いきなり結婚だと抵抗もあるでしょうから、その……同棲、というんですかね。まあ、そんな所です。実際あなたの仕事は今、私の食事の用意から洗濯、掃除と、家事全般をやってくれています。ただ、自宅から私の家へ通勤しているのを、家へ帰らず、私の家で寝泊りして下さい、と、こつこつわけです。

ちなえ はあ……。

高太郎 お願いできませんか？

ちなえ あの。
高太郎 はい。
ちなえ それは、あの、その、そのことですか？
高太郎 はい。……その、その、そのことですよ。

ちなえ 考えている。

高太郎 二面観にはちゃんとお話ししますから。その……。

ちなえ、高太郎を見ている。

高太郎 ダメでしょうか？
ちなえ ……はいですよ。
高太郎 え、ほ、本当ですか？
ちなえ はい。
高太郎 じゃ、じゃあ、早速で申し訳ないのですが、明日から……。
ちなえ はい。荷物はゆつくり運ぶはいいですよね？
高太郎 いいですよ。
ちなえ 分かりました。それでは、明日からよろしく申し上げます。

ちなえ、お辞儀する。高太郎がすくまごて喜びに耐える。

高太郎 ハ……ハ……。
ちなえ は？
高太郎 ハ……。
なさえ は？
高太郎 ハッピー！！

高太郎、両手を広げ、大喜び。まぶしいほどの照明。

音楽。榎原敬之「どうしようもない僕に天使が降りてきた」

音楽と同時に幕が上がる。上手には机。机には電話や筆記用具。下手に長いリアー。後方は全体的にカゲになっている。中央にドア。中央のドアより司、亜美、男、女が入ってくる。音楽に合わせて6人のダンス。(ダンスは本格的なダンスではない。楽しそうにさわいでいるダンス。対のペアでフオークダンスのようなものでも良い。なるべく歌詞の言わんとしていることに合わせた動き)音楽だけにアードアウト。同時に照明も暗くなる。高太郎、ダンスの終わりにセンター前へ。そこにサスのみ残す。

高太郎 愛とは時間がたつにつれて冷めていくものである。ある恋はゆつくりと。また

ある恋は一瞬で。それは決して悲しい答えではありません。真実なのであります。「一生を共にする夫婦もいるじゃないか」と言う人もいるでしょう。確かにそういう夫婦もいます。では、その二人は一体何がうまくいったのでしょうか？運命的な出会いだっただけの恋愛から家族愛へと愛のカタチが変わったからか？それとも愛とは関係なしに惰性で生活していったどれも正解のようですが、私は違つちと思ひます。いえ、違つち思ひたらしいのです。愛は冷めます。それは真実です。が、愛は決して消えることはないのです。……お答えしましょう。愛が長く続く方法。それはどれだけ相手を許せるか、ということ。長く一緒にいれば相手のことが分かつてきます。良い所も悪い所も。そしてその悪い所をどれだけ許せるかが、恋愛を長続きさせる為の真実なのです。私は声を大にして言ひたい!! 愛は時間がたつにつれて冷めていく!! が決して消えないのです!! 消えません!! 消えないで!! 消えちや嫌!! 消えるなら、消える時、消えれば、消える!! 消えてどーする!!

7

舞台にライト。

音楽。 Billy Joel 「Where Were You」
詞がある。詞、拍手!!

司 いーじゃないですか先生!! グーですよ、グー。いけますよ。
高太郎 いけますか。
司 最後の方がわけわかんないですけど、いけますよ。

高太郎 そうですか。いけますか。
司 エッセイ初挑戦とは思えませんね、
高太郎 ニクイ。ありあまる才能がニクイ。
司 さすが先生!! こんなにハイレベルな内容を期日通りに仕上げるなんて、いつも助かります!!
高太郎 締め切りも守れん奴は才能のない証拠です。
司 ですよ、そうですね、いやー、先生以外にも担当している作家がいるんですけどね、そいつなんて一週間遅れても平気な顔してるんですよ。しかもたいては面白くないし、少しは先生を見習えつていうんですよ!! あ、でもこれはまあ、俺個人の考えなんですけど、ちゃんと期日までに上げられるなら、もうちょつと早く仕上げて、さなえさんの為には時間作つてあげた方がいいんじゃないですか?
高太郎 司君、私は確かに期日までに原稿を仕上げます。が、余裕で書いているわけじゃないんです。書く前に充分に調べ、研究してから書き始めるんです。締め切りなんてないなら私はもつと練りに練つてよりよい作品作りがしたいんです。分かりますか?
司 はあ……。
高太郎 さなえ君のことは私なりに考えているつもりです。
司 ええ。
高太郎 ……さなえ君が何か言つていたのですか?
司 あ、いえ。はたから見ていて最近二人でゆつくりしていることってないなあと思ひま

8

して。
高太郎 そうですか？
司 そうですよ。!! 仕事、仕事で、ずーっと机に座りっぱなしで、
高太郎 ……机には座りませんが。
司 いや、だから、机に向かって、その……。
高太郎 仕事で思っ出しました。頼んでおいたア。持つてきていただけましたか？
司 ええ、ああ、アですね。はい。

司、カバンのあるアアの所へ行くつと

司 じゃ、なくて。仕事のしすぎですつて!!
高太郎 編集者の人間が作家に仕事をするな、とらうのも変な話ですね。
司 好きなんですよ、先生が。
高太郎 よして下さ。い。
司 よして下さ。い!!
高太郎 司君、早目に私の担当から外れた方が君の為です。私は君の期待に応えられそ
そうもありません。
司 聞いて下さ。い、意味が通じません。心配つてつとです。体には気をつけてただただかな。い。も
うすぐ記念日じゃないですか。

高太郎 記念日？
司 ちなえさんと暮らし始めてから3年目の記念日ですよ。い。ね。
高太郎 ああ。
司 ああつて、まさか先生、忘れてたんじゃ……。
高太郎 心配無用です。私はその日の為、に鬼のような仕事をこなしているのです。
司 あ、そうなんですか？
高太郎 照れます。
司 じゃ、プレゼントとかも用意しちやつてたりとか？
高太郎 実はい……しています。
司 え、何ですか、何ですか？
高太郎 知りたいですか？
司 はい!!
高太郎 二つちです。

二人、机の方へ。高太郎、引き出しから小箱を取り出す。

司 二、これは!!
高太郎 照れます。
司 婚約指輪じゃないですか!!

高太郎 照れます。

司 ロマンチックじゃないですか、「ドロマチックじゃないですか」、超現実主義者の先生がどうしたんです？

高太郎 エッセイで恋愛について調べたでしょう。その賜物です。

司 ちゃっかり実用してるんですね、。

高太郎 いいでしょう？

司 いいですよ、。

高太郎 バカンスで南の島へ行き、琥珀色の夕暮れ時に、さぞ波の音をバツクに」の指輪を渡すつもりです。

司 なる程、もしこうしてもそのまま海へ飛び込めますもんね、！

高太郎 そうそうそう。ふられたあゝつつてトづくン、ブクブクブク、チーンって何でやねん、！

司 先生、ノリツツニみ苦手ですよね。

高太郎 とにかく、プロポーズ大作戦を実行する為にもあと一本、新作を書いてスケジュールに余裕を持たせたいのです。

司 分かりました。微力ながら俺も協力させていただきます、！

高太郎 よろしく願います。

司 はい、！

高太郎 では、例のアしを。

11

司 はい、！

司、カバンから小ビンを取り出す。

高太郎 これが……えーと、何でしたらけ？

司 強制幻覚催眠剤「ウインタームーン」です。

高太郎 強制幻覚催眠剤、ウインタームーン……。説明していただけますか？

司 いや、俺も詳しいことは分からないんですけど、この薬を飲めば望み通りのトリップが出来るってことらしいです。

高太郎 望み通りのトリップですか。

司 特殊な薬品を使ってるらしいんですが、調べても全然分からないんです。ただ、噂ではこの薬を飲んでトリップすると、凄いらしいですよ。

高太郎 凄い？……どう凄いらしいですか？

司 何と云うか限りなく現実的らしいんです。トリップ中に見える物や味。ニオイ、物を触った感触なんか。

高太郎 ほー。トリップ効果以外に何か副作用は？

司 特にないと聞いてますけど……。ただ、これは原液なんで、使用する場合には3倍くらい薄めて飲んで下さい。じやないと問題が起きますから。

高太郎 問題？

12

司 ええ。これを原液のまま飲んでしまうと、その……覚めないんです、なかなか。薄めて飲むのは時間の経過によってトリップ効果が自然になくなります。

高太郎 では、もし原液のまま飲んでしまったらどうやって覚めるんですか？

司 意志です。

高太郎 意志？

司 「俺は起きるぞー……」という強い意志が必要なんです。

高太郎 トリップしているのに意志、ですか。

司 はい。……先生、この薬、以前にある大手製薬会社が販売しようとしていたのをご存知ですか？

高太郎 いえ。

司 政府からOKが出なくてボツになりました。

高太郎 どうして？

司 トリップの世界があまりにも理想的すぎて覚めるのが嫌になってしまいうらしいんです。

高太郎 しかし、トリップしてることとは眠っているのと同じことだから食事とかしなないと死んでしまうでしょう。

司 はい。ですから精神的に弱い人、劣等感の強い人は使用禁止にしようとしたんですが、そーゆー人ほど使いたがりますからね。

高太郎 なるほど。それで許可がおりなかったのですね。

司 はい。望み通りの夢が見れて、そこで生きられるんですから、無理もありませんけど。

高太郎 望み通りの夢……ふむ。面白い言葉です。が、何だか使うのが恐くなってきましたね。

司 先生なら大丈夫だと思いますよ。別に今の生活に不満があるわけじゃないでしょう。それにキチンと薄めれば問題ありません。時間がたてば嫌でも覚めますから。

高太郎 そうですか……。これを薄めて飲むだけでいいんですね？

司 基本的にはそうです。けど、よりリアルなトリップをしたい場合はそれに関係のあるアイテムを持って、心の中で強く念しながらトリップするんです。例えば「不思議の国のアリス」の世界へトリップしたければその本を持つとか天国へ行ってみたいなら、自分のイメージする天国の絵を描いてトリップするとかです。

高太郎 なるほど。

司 後は先生がご自分で体験して研究してみてください。

高太郎 分かりました。

司 これ、一応今説明したことをメモしてありますんで。

司 ポケットからメモを取り出し、小ビンのわきに置く。

高太郎 ありがとう。

同 いえ。
高太郎 ……ところで、どうやってコシを手に入れたんです。いわゆる 一つの「ヤバイもの」でしょっ？
同 俺の彼女が心理カウンセラーやってまして、ある種の患者にはこういってトリックブローイングを使ってカウンセリングするらしいんです。
高太郎 ある種の患者。
同 不安や不満からくるストレスで精神的にその…ヤバくなっちゃいそうな人選です。
高太郎 ヤバくなっちゃいそう…ヤバくなっちゃったら？
同 手選れです。
高太郎 手選れですか……恐いですね。

15

下手よりちなえがお茶を持って入ってくる。
ちなえ あ、いらっしやい。
同 どうも、お邪魔してます。
ちなえ ちよと待ってね。今、同君の分も持ってくるから。
同 あ、いえ、ゆづくりしたらいいんですけど。早くこの原糧を届けなさい。
ちなえ 大変ね。

同 いえいえ。先生が締め切り守ってくれるんで助かってます。じゃ、先生、失礼します。
高太郎 うん。
同、ちなえの方を向いて
同 おじやました。
ちなえ 気をつけてね。
同 はい。

同、出て行きかけて
同 あ、ちなえさん。
ちなえ 何？
同、高太郎を見て、ちなえを見る。
同 じつと、

16

同、上品でちなえをつく。

ちなえ

何？

同

まじつちやしますよね。フアイアつすも、

ちなえ

何なのよ。

同

じゃ、失礼します。

同、下手に去る。

ちなえ

・・・何なの？

高太郎

まあ？

高太郎、机へ移動する。ちなえ、机の上にお茶を置く。

ちなえ

お疲れ様でした。

高太郎

うん。

高太郎、司の置いていたメモに目を通し始める。

ちなえ

初のエッセイはちよことまじつたんじやない？

高太郎

ん？・・・うん。まあ、そうですね。

ちなえ

それなのに締め切り守っちゃうんだから流石よね。

高太郎

・・・うん。

白々とした間がある。ちなえ、つまらなそう。

ちなえ

読んでる上、コメ、ね。

高太郎

うん？

ちなえ

おフロ、入る？

高太郎

うん。

ちなえ

あ、夕飯先の方がいい？

高太郎

うん。

ちなえ

今日は何食ぐたい？

高太郎

うん。

ちなえ

ちよこと。

高太郎

うん？

ちなえ

何がいいの。ハンバーグ？

高太郎

うん。

ちなえ みそ汁は？
高太郎 うん。
ちなえ パスタもいいわね。
高太郎 うん。
ちなえ でもグラタンでもいいかな。
高太郎 うん。
ちなえ あ、でも最近ごはん食べてないか。
高太郎 うん。
ちなえ じゃ、ドリアにする？
高太郎 うん。
ちなえ ドリヤー！！なんちゃって。
高太郎 うん。
ちなえ ……うんばかりね。
高太郎 うん。
ちなえ 絶対何でもうんって言うの？
高太郎 うん。
ちなえ 洋服買って。
高太郎 うん。
ちなえ どうか連れてって。

高太郎 うん。
ちなえ 洗濯ものやってくれる？
高太郎 うん。
ちなえ あと、お掃除も。
高太郎 うん。
ちなえ ご飯も作って。
高太郎 うん。
ちなえ 私って美人でしょ。
高太郎 ううん。
ちなえ ……一応話は聞いてるんだ？
高太郎 うん。
ちなえ でも、本当は聞いてないんじゃない？
高太郎 うん。
ちなえ どっちなの？
高太郎 うん。

ちなえ、黙る。しばし間。高太郎、メスを机の上に置いて

高太郎 ちなえ君。

ちなえ (嬉しそうに)何？
高太郎 ちよつと図書館で調べものしてきます。
ちなえ もう閉まつてるんじゃない？
高太郎 裏口から特別に入れてもらいます。

高太郎、お茶を 一気に飲みほす。

高太郎 ちちそう様。それじゃ、行ってきます。

高太郎、下手に去る。

ちなえ あんやロ、人が優しくしてりやつけ上がりやがって、「っん」しか言えなりのか、あのオヤジ!! 男の人って3年もたつとこんなになるわけ!! かまつてくれたのは最初の二年間だけ!! この2年間はトリーの日々よ!! トリーの日々!!

高太郎、ヒョコと顔を出して

高太郎 何か言いましたか？
ちなえ いやー、夕日がキレイだなー。

高太郎 今は夜ですけど？

高太郎、去る。しばし間。

ちなえ はららたつー!! ええ、い!! っとなつたら、っとなつたら……何かマフスしてやる
!!!!

ちなえ、辺りを色々ぞぐる。画びょうをイスの上に置くが、しばらく考えて首をこねり、さすがにやりすぎと思ひ元に戻す。ふと、小ビーンに気がつく。

ちなえ 強制幻覚催眠剤、「ウインタームーン」。

メフを手にする。小声でつつつと読むちなえ。

ちなえ 理想の夢が見られる薬!! トリップの世界!! 理想!! 夢!! そして愛!! いいじゃない、ロマンチックじゃない。やつたらうじゃない!! こんな現実が続くのなら何の未練もないわ!! 私は夢に生きるのよ!! 愛に生きるのよ!! 女ってそういうもんなのよ!! やつたらうじゃない!! 飲んでやるうじゃない!! トリップしたるうじゃない!! ふーんだ!! 高太郎のバカヤロ
!!

ちなえ、小じいを高々と上げる。
暗転。コクコクと飲む音。
明りがつく。ちなえが手に原稿を持って倒れている。
しばらくして高太郎が入ってくる。

高太郎

ただ今、戻りました。……おや？そんな所で寝てるとおそろしますよ？……超
熟睡状態ですか？やれやれ。どうやら疲れているのはアタタも同じようですね。いや、
反省してるんですよ、これでも。最近、家のことは任せっきりですから。それにノートも
してませんしね。ノートだって。死語です。照れます。……おや？

ちなえの近くに小じいがあることに気付く。中はカワ。

高太郎

ちなえ君、アタタこれ、飲みました？飲みましたね？薄めました？薄めてませんよね。
このままトリップ飲みしましたね？このことはトリップですね。完全なトリップ状態です
ね？困ります。困ってしまいます、そんなことこれでは。困ってはいませんか？はいですよ
ね？困ります。どうしましょ。

高太郎、踊る。

高太郎

踊ってる場合じゃありませんよね。どうやら私、かなり動揺しているようです。落ち着
きましょう。(深呼吸一回)落ち着きました。えーと、そうですね。同君に相談しましょ
う。そうしましょ。電話です。

高太郎、机の上にある電話から電話する。(「ル」音)

司、下手に現れる。

高太郎

もしもし？同君ですか？私です、。

司

あ、先程はどうも。どうしました？

高太郎

困ったことになりました。ちなえ君がですね、「ウインタームーン」を原液のま
ま全部飲んでしまったんです！！

司

え？

高太郎

私が少し席を外している間に飲んでしまったようなんです。

司

そんな、

高太郎

どうしましょ、。

司

どうしましょって……えーと、分かりました、今すぐ行きます、。

高太郎

ありがと。なるべく急ぎをお願いします。

高太郎、電話を切る。

司 とっつ !!

司、ジャンプして「高太郎の部屋」の空間に入る。

司 先生、大丈夫ですか！？

高太郎 早すぎるでしょう !! アナタ、今までトコじらんです！？

司 ちなえさん、大丈夫ですか？

高太郎 分かりません。息はしているようですが……。

司 いくら体に害がなるとはいえ、そんな量を 一気に飲んだら……。

高太郎 アズイですか？

司 アズイでしょう。

高太郎 なんてっただいです、私がキチンとしまっておかなかつばかりに、っつしまじまじまじ !!

司 トリップのことなら彼女に聞くのが 一番です。連れて来ますから。

高太郎 お願いします……!

司 おーい、亜美ちゃん。入っといで !!

音楽。松浦亜弥 「Yeah! めっちゃホリデイ」

亜美、元気よく入ってくる。センターでポーズ。

亜美 はーい、私、亜美ちゃんです、!キヤロ!!

司 馬鹿でしょう。

高太郎 キヤロが、いすなあ。

亜美 「ウインタームーン」を薄めずに飲んじやっただって聞いたんですけどー。

高太郎 彼女です。

亜美 亜美ちゃん、見てみまーす。

高太郎 よろしくお願いします。

亜美、ちなえの様子を見る。

高太郎 ……どうでしょう？

亜美 んーとお、大丈夫みたいです。

高太郎 そうですか。安心しました。

亜美 でもね。

高太郎 何ですか？

亜美 ヤバイみたいです。

高太郎 何ですか！？

亜美 何か覚める気なうみだいです。
高太郎 そ、それはどういふことですか？
亜美 不満があつたみだいですよ。今の生活に。
高太郎 何でそんなことが分かるんですか？
亜美 亜美ちゃんね、心理学習つてね、その中に「精神が肉体に及ぼす影響」つていふのがあるの。この人の顔の表情とか、首や肩のゴリとかでストレスの度合いが分かるの。ハイ？
司 亜美ちゃん、すげー！
亜美 ブイ！！

亜美、大いばりでブイサイン。

高太郎 日々の生活に不満があつたからトリップの世界を選んだ、と？
亜美 と、思いますけど。
高太郎 何でっつたんです！！

高太郎、頭をかかえてシヨックを受ける。

司 先生、気を確かに！！
高太郎 司君、これが正気でいられますか？！、ちなえ君がそこまで不満をつのらせてい

たなんてちーつとも知りませんでした。言わなくても分かってくれると思いきちんと会話しなかつた私の責任です。寂しい思いをさせてしまった私の責任です。悪いのは私なのです。だから狂います。

司 先生、落ち着いて下さい！、亜美ちゃん、何とかならない？！

亜美 へっ。つだけ方法がないわけじゃないよ。

高太郎 本当ですか？！

亜美 うん！！

司 どうすればいいの？！

亜美 この人のトリップの世界に入るの。んで、この人を説得して、起きてもらつたの。

高太郎 そんなSFチックなことが可能なのですか？！

亜美 キヤピ！！

司 亜美ちゃん、すげー！

亜美 すごい？すごい？褒めて、褒めて。

司 よちよち。

司、亜美の頭をなでる。

高太郎 あ、あの、ぜひお願いできますか？！、お礼は何でもしますから、

司 亜美ちゃん、俺からも頼むよ。

亜美 うん。もちろん協力はするけど……この人がどの世界にトリップしたか分からないし。
司 トリップアイテム!! トリップアイテム!! ちなえさんの近くに何かありませんか!?

高太郎、ちなえを見る。手には原稿がある。

高太郎 これは……。

司 何ですか。

高太郎 まだ持っていてくれたのですね……。これは私が彼女の為だけに書いた小説です。これと交換でここに住んでもらったんです。3年前のことです。

高太郎、原稿を開く。

高太郎 この頃はまだ文章も未熟でしたね。……ぷっ、笑っちゃいます。

司 読んでる場合ですか!?

亜美 でも、どんなお話なんですか?

高太郎 テレビの報道番組で活躍することを夢みている青年が田舎にいる彼女と遠距離恋愛する話です。仕事と恋の両立の難しさを書いた作品です。テーマは「何かを手に入れる為には何かを失わな」とけなしです。

亜美 ふーん。じゃ、そのお話の中にトリップしたのね。分かりました。亜美ちゃんのつづ

具、その「催眠誘導器」ジヤジヤ〜!!

亜美、5円玉に糸のついたものを取り出す。

司 亜美ちゃんダサダサ〜!!

亜美 ダサダサ〜!!

高太郎 実にお似合いの2人です。

亜美 じゃ、これ(原稿)持って、このお話の世界をイメージして下さい。

高太郎 え!?! 私が行くんですか!?!

亜美 当たり前じゃない!

高太郎 あなたが行くんじゃ……。。

亜美 ムムム。そーゆー無責任なこと言う人は……んー。

司 先生、危ない!!

亜美 亜美ちゃんパンチ!!

司、高太郎と亜美の間に入り、亜美のパンチを受け止める。その瞬間、後ろ向きにトタトタと下がり、高太郎も「緒になって」ける。

亜美 まいったか!

司 先生、危ない所でした。
高太郎 危ない所って、君今、自分から下がってきませんでしたか？
司 とんでもない。
亜美 いっい？分かった？ちゃんと自分で解決しなくちゃ！！
高太郎 分かりました。いえ、行けるならもちろん、行きます。勝手が分からないので成功するか不安なもので……。
司 亜美ちゃん、俺たちは一緒に行けないの？
亜美 え？
司 先生とさなえさんを助けたいんだ。……ダメかな？
亜美 もー、つかりしたら優しいんだからー「シキシキ」
司 よせよ。照れるじゃないかー。
亜美 あの(高太郎)からカウンセリング料、ふんだくろっね。
司 ね、……つこことは行けるの？
亜美 ブイ！！
司 亜美ちゃん、ありがとうー。

亜美、原稿を高太郎に渡す。

亜美 はい。じゃ、これ持って座って。片手はこの人の手をにぎって。

高太郎、空いている手でさなえの手をにぎる。

亜美 このお話の世界をイメージして下さい。

高太郎、上目づかいで考えようなずく。

亜美 じゃ、はじめます。この5円玉を見て下さい。

5円玉を左右へゆらし始める亜美。

亜美 あなたは段々眠くなる。

司 べたべたなセリフだね。

亜美 眠くなるったら眠くなる……眠くなる……。眠くなる……。

亜美 だいに小声になり、

亜美 グー。

司 お前が寝てごーすんだよ。

司、亜美につつ込む。

亜美 亜美ちゃん失敗！
高太郎 あ、そーだ！...ちよつと待つて下さい。

高太郎、机へ移動し、引き出しから小箱を取り出す。

高太郎 現実のものをトリップの世界へ持つていくことは可能ですか？

亜美 まあ、結局はイメージですけどね。

司 先生、それ……。

高太郎 ええ。

亜美 じゃ、もう一回初めからいきます。手をつないで下さい。つかりは二人(そなえ)と亜美ちゃんの間に入って手をつないでね。

司 分かった。

全員、準備する。

高太郎は片手に原稿、片手にそなえを。司は片手にそなえ、片手に亜美を。亜美は片手に司、片手に田玉を持つ。

亜美 じゃ、始めます。あなたは段々眠くなる。眠くなるつたら眠くなる。段々、段々眠くなる。眠くなるつたら眠くなる。

明かり、しだいに落ちていく。

3人、グーとイビキをかいたら完全に暗転。

異世界空間へ移動するような妙な音と音楽。以下は声のみ。

司 うわ、体が、

高太郎 グニヤグニヤです、私このまま死ぬのでしょうか？

亜美 2人とも落ち着いて、まだトリップの世界でイメージが安定してないから仕方ないのです。

高太郎 ど、どうすればよいのでしょうか？

亜美 落ち着いて精神を集中させて下さい。次第に世界と自分が一体化してきますから。

司 あっ、あつちに明りが見えるよ。

亜美 あそこが一番イメージが安定してるみたい。おそらくあそこ……。

高太郎 さなえ君が？

亜美 多分。

司 行ってみましょう！

3人この間に上手へ移動している。3人のみに明り。

高太郎

「」は……？」

いきなりまぶしほどのカラフルなバウライト。

音楽。小泉今日子「なんてったってアイドル」

ちなえがマイクを持って登場。左右に男と女がちなえを盛り上げている。ちなえ、歌いはじめる。男と女のダンス。1曲目の終わり位で音楽がいきなり止まり、ちなえ以外は全員コケる。ちなえは深々とおじぎ。男、起き上がりちなえからマイクを受け取る。

男

どうもありがとうございます！！ エントリーナンバー1番、真柴ちなえさんで「なんてったってアイドル」でした！！ ちね続じてのコーナーは……？

女

クイズでポン！！

男

クイズでポンです。いやーこのコーナーもずいぶん人気ですね！！

女

そうですね！！

男

今回の問題は「」にいらっしやうますちなえさんについての問題です！！

男、上手にはけ、クイズ用のポタンを持ってくる。(押すと札が立ち、ピンポ

んという音がする)上手の机ぐそれをセッティング。その間に女から説明がある。

女

クイズは3択です。3人の中から解答者を決めて下さい。3問中2問正解すれば、何と豪華商品、真柴ちなえさん本人をプレゼントいたします！！がんばって下さいね。それでは解答者を決めて下さい。

高太郎

何です、何なんです……？

司

これはチャンスですよ、先生！！

高太郎

はい？

司

クイズに正解すればちなえさんが戻ってくるんですよ！！

高太郎

もしかして、これがトリップの世界ですか？

亜美

はい！！

司

ちなえさんに関する問題なら、先生に決まってるじゃないですか！！

高太郎

分かりました。

亜美

がんばり！！

高太郎、解答席につく。

「第0問」の後にアクセントの音があっても良い。

男

それでは第1問。「」にいる真柴ちなえさんの誕生日はいつ？

女 A、4月1日。B、6月⁶⁶日。C、6月²⁰日。

高太郎、すかさずボタンを押す。

高太郎 うーんと、A、

女 ブッー。

男 おしい、正解はCの6月²⁰日でした。

高太郎 何でございませう。

司 先生、

亜美 彼女の誕生日も分からないんですかあ^{!?}

高太郎 冗談ですよ、冗談。

司 世の中にはやっつて良い冗談と悪い冗談があります、

高太郎 いや、その…以前は覚えていたんですよ。

男 続いて第2問。ちなえさんの血液型は何?

女 A、A型。B、B型。C、無電型。

高太郎、ボタンを押す。

高太郎 C、

女 ブッー。

司 先生、

高太郎 何でございませう、

司 AとB間違えるならまだしもCで、いつからちなえさん、相撲取りになったんですか

^{!?}
正解はAのA型でした、

亜美 どうするんですかあ、3問中2問正解しないといけないのに。

「ヒロリロリ〜」という音がする。

男 シヤーン。ピーン。グチャーン。ス!!。この問題に正解すれば2段階アップです。

司 何だ2段階アップって、^{!?}

亜美 よおーし、これは亜美ちゃんに任せなさい、

司 あ、ちよつと、

亜美、強引に高太郎をどかせて席に座る。

男 第3問、ちなえさんの趣味は何?

女 A、入江釣り。B、エアトランプ占ひ。C、小動物逃がし。

高太郎 その中に正解があるんですか!?!
亜美 はい!!

亜美、ボタンを押す。

男 どうぞ!!
亜美 はらたいらに三千点!!
女 ブツブツ。
司 亜美ちゃん!?!
亜美 軽くすぐり?
司 くすぐり入れてどーするの!!
女 正解はAの一人しりとりでした。
高太郎 本当ですか?
ちなえ ええ。
高太郎 楽しいですか?
ちなえ 結構ね。
男 いやー、残念でした。全問不正解。したがって賞品はナシ、とませていただきま
す。それではまた来週!!

ちなえ、男、女、下手く去ろうとする。

高太郎 待って下さい。ちなえ君!!

3人立ち止まる。

ちなえ ……何?

高太郎 一体どうしたっていうんですか。何が不満なんです?

ちなえ 不満?

高太郎 ……仕事が忙しくてキチンと話を聞かなかったことは謝ります。だから戻
りましょう。

ちなえ ……それだけ?

高太郎 何です?

ちなえ 話を聞いてくれなかったからだけのこと?

高太郎 え?

ちなえ 私の話を聞いてくれなかったから、怒ってると思ってる?

高太郎 違っんですか?

ちなえ そうだけど。

高太郎 でしょう?

ちなえ だから、それだけ？
高太郎 はい？
ちなえ 話を聞いてくれなかったからだけで、こんなに怒ってると思ってるの？
高太郎 と、いつと？
ちなえ あ、ねえ、話を聞くとか聞かないとか、そんなのは理由の二つにすぎないの、原因はもつと根本的なことも、分らない？
高太郎 原因って……。とりあえず元の世界に戻ってゆつくり話しましょつ。
ちなえ ヤダ。
高太郎 どうしてですか。
ちなえ ヤダからヤダ。
高太郎 そんなのがマツ言わないで下さい。
ちなえ 嫌なものは嫌だったらヤダ、
高太郎 感情的にならないで下さい。もつと冷静に考えましょつよ。
ちなえ 考えたわよ、この2年間、ずつと考えて、考えて、耐えて、耐えて、頑張っただけど、もーヤダ、もー限界、この世界の方が気楽で楽しいもん、考えなくていいし、耐えなくていいし、待たなくていいもん、絶つつ対戻らないからね、
高太郎 ちなえ君、

高太郎、去りかけたちなえの腕をつかむ。

ちなえ さわらないでよ、
ちなえ、高太郎にヒンタをして去つて行く。

女 さわらないでよ、
女、ヒンタをして去つて行く。

男 さわらないでよ、
男、ヒンタをし、同にリモコンを渡して去つて行く。

司 ……3連発はキツイつすね。
高太郎 鼓腹がキーンつて。……私が何をしたつていらつんです？
亜美 気付いてないんですか？
高太郎 え？
司 先生、何で指輪を見せなかつたんですか。
高太郎 いや、そんな暇もなくバチーンですからね。

司 ズシでしたね。
高太郎 ズシでした。
司 ……それはそれとして……これ、何ですかね？
高太郎 どうしたんです？
司 ちろきの男の人からもらったんです。

亜美、司からリモコンを受け取る。

亜美 リモコン……だよな。この数字ってチャンネルじゃない？あと、巻き戻しと早送り、再生もあるよ。
司 押してみる？
亜美 何押す、何押す？
司 うーまあ適当に。
亜美 じゃあ……巻き戻し！

亜美、客席にリモコンを向ける。ピツという音。3人組、後ろ向きに戻って来る。さなえが高太郎の目の前に来たら。

亜美 再生！

ピツという音。

さなえ さわらないでよ！
女 さわらないでよ！
男 さわらないでよ！

3人、それぞれ高太郎をビシタして去って行く

司・亜美 おお！！
高太郎 何なんです 一体……。
司 先生、つまりこのリモコンはこのトリップの世界のリモコンなんですよ！これさえあればさなえさんを探しやすくなります！どこにいるのがチャンネルを変えて探せばいいんですから！
高太郎 私に会いたくないはずなのにどうしてそんなものを渡すんです？
亜美 えー？分からないんですか？
司 亜美ちゃん、分かるの？
亜美 うん。……つまりは分からない？
司 うん。教えて。

亜美 ……教えなさい。
司 何で？
亜美 どうしても。
司 えー？亜美ちゃんの意地悪〜、

司、亜美の腕を、ひ、ひ、とつかむ。

亜美 つかり、んのヒツナ、
司 ツ、ツ、ただけだよ、ツ、ツ、
亜美 おかえし、ツ、ツ、
司 ツ、ツ、
亜美 ツ、ツ、
司 え〜い、ツ、ツ、
亜美 も〜、ツ、ツ、
司 やつたなあ、

司、勢いをつけて指を出す。亜美、リモコンでカーン。ドツと、つ、音。

司 あ〜！！

3人、再び後ろ向きに戻ってくる。手には何故かアルミ缶の蓋。

司 ものはついでだ。えい。

ドツと、つ、音。

さなえ ちわらないですよ、
女 ちわらないですよ、
男 ちわらないですよ、

3人、アルミ缶の蓋で高太郎の頭を叩いて行く。

司 先生、大丈夫ですか？
高太郎 ものはついでって何です。
司 いや、その。亜美ちゃん、亜美ちゃんがリモコン持ってるし危ないから賞して。
亜美 えー。ヤダ。こんな面白いもの。
高太郎 面白い？
司 いいから、賞して。

亜美 や。
司 亜美ちゃんが持つてだつて仕方ないでしょ。
亜美 やだ。
司 貸してつてば、
亜美 やーだー、

2人、リモコンを取り合つ。ピツとびつ音。

亜美・司 あ……。

3人、後ろ向きに戻つてくる。手には何故か大きなハリせん。

高太郎 もーえーつちゅーに!!

高太郎、3人を強引に押し戻す。

司 チッ、

高太郎 チツつて言つた、今、チツつて言つた、とにかくそれ、貸して下さい。自分で持つてないと不安で仕方ありません。

高太郎、亜美からリモコンを受け取る。

司 先生、さつきさなえさんと一緒にいた男の人と女の人つて……。

高太郎 おそらく小説の主人公とその彼女でしょう。服装が私の書いた通りでしたから。

司 そうですか……。

亜美 どういうお話なんでしたっけ？

司 亜美ちゃん、何も今、そんなこと聞かなくても、それよりさなえさんを……。

亜美 でも、そのさなえさんは理想のトリップをするのにこの小説の世界を選んだわけでしょ？物語の内容を知つておけばさなえさんの気持ちを知らずにはなれないと思つけど。

司 なるほど、先生、お願いします。

高太郎 遠距離恋愛のお話です。主人公が昔からTVの報道番組で成功したいという夢を持つてまして、それをかなえる為に上京するんです。彼女は地元就職し、2人は離ればなれになります。主人公が仕事で成功したら彼女を迎えに来ると約束するのです。そして、その約束の日が来るまで待つ彼女。物語は主人公が上京する日。別れのホームから始まります。

サズがつく。明りの中に男と女。

音楽。 Human Nature 「Don't say Goodbay」

女 荷物これだけなの？向こうでの着替えとか大丈夫？
男 大丈夫だって。何か足りなかつたら買えばいいんだし。
女 そーゆー考えがいけないの。社会人の先輩として言わせてもらいますけどね、
お金つて予想外の所に出ていくものなのよ。
男 心配してくれるのはありがたいけどさ、せつかくの時間なんだし、もつとこっち……。
女 お弁当とか買った？飲み物は？
男 だからさ……。
女 ほんと、世話やけるよね。向こうで一人で大丈夫？
男 お前が心配しすぎなんだよ。
女 心配だよ……。
男 え？
女 向こうでちゃんとやっつけてくれるのか心配だし、向こうで浮気しなしか心配だし「アタシが
いなくてもキチンとやっつけてくれるか心配だもん」……。
男 ……そうか。
女 心配だもん……。
男 うん。……お前ってホント、素直な言い方できないな。

女 ……悪かったわね。
男 ……ゴメンな。

女、バツと男の顔を見る。しばらく見つめ合った後、

男 ゴメンな。
女 だって、昔からの夢だったんでしょ。
男 うん。
女 じゃあ、しょうがないじゃん。
男 ……うん。
女 絶対、成功するんでしょ？
男 勿論。
女 ……待ってるから。
男 ……うん。
女 でも、あんまり無理しちゃダメだからね。
男 分かった。……メールするから。
女 うん。
男 手紙書くかも。
女 えー？本当？

男 メールより嬉しいだろ？
女 うん。嬉しいかも。
男 かもって何だよ。かもって。
女 ……うん。嬉しい。
男 じゃあ手紙にする。
女 楽しみにしてるね。
男 うん。

「ブルブル」という発車の音。

男 じゃ、行ってくる。
女 行ってらっしゃい。
男 ちゃんと待っていてくれよな。
女 大丈夫。

二人見つめ合う。

男 行ってくる。
女 行ってらっしゃい。

プシューっとドアが閉まる音。ガタゴトと電車が出る。男は暗転。女はいつまでも呆れている。

女 行ってらっしゃい。

女のサスも消える。

要美 いい出だしじゃないですか。切ないね。切ないね。
司 切ないね。

要美、司と手を握り合う。

高太郎 私も結構気に入っている出だしです。

要美 それからどうなるんですか？

高太郎 続きですか？お話をしたいのは山々なんですけど、さなえ君が気になって仕方ありません。もう「腰子ヤリ」してからでもいいですか？

司 どうするんです？

高太郎 このリモコンを見て下さい。1チャンネルが光ってます。と、いうことは今は1チャ

高太郎 ンホルにいるのでしょつ。
 司 ええ。
 高太郎 順番にいつてみよつと思ひます。次はさなえンホルです。さなえ君を採しに行きましょつ。
 司 分かりました。
 亜美 はい。
 高太郎 では移動します。

高太郎、客席に向けてリモコンを押す。ピツという音。さなえ、お姫様のドレスを着て登場。その後ろから女が入ってくる。さなえ、両手を広げて楽しそうに回る。
 音楽。Baroques「Purple Day」

女 今日はお姫様 一人でお散歩です。お城での窮屈な時間を忘れ、のびのびと自由に歩くことが出来るのです。まあ、何と羨敵な青空なんでしょつ。ああ、何と空気のおいしいでしょつ。お姫様は嬉しくて仕方ありません。が向こうの方から何やらあやしい人影が……あつ！危ない！

音楽。植松伸夫「Battle2」
 男、あやしい格好をして登場。さなえをさらつ。

さなえ きやー！
 女 さあ、大変。お姫様が悪者につかまってしまった！さあ、勇者よ。力を合わせ、お姫様を助けだすのです！

カミナリの音。それに合わせて照明もクワツク。

高太郎 ……勇者というのはやはり我々のことでしょつか。
 司 まあ、おそろくは。
 高太郎 ですよ。……では……。この悪者め、お姫様から手を離しなさい！
 男 うまく話にのつてくれてありがとつ。だがな！そう簡単に姫を渡すわけにはいかん。姫を助けたくば、私と勝負しろ！！
 亜美 何を、やつたらうじやないの！
 司 亜美ちゃん、話合わせすぎ。
 男 よーし、よく言つた！私との勝負は……「早口言葉対決」だ！
 女 ミュージック、スタート！！

音楽。ドリフ「早口言葉のテーマ」

さなえがたれ幕を用意。たれ幕に早口言葉が書かれている。高太郎、司、亜美、男、女が横一列になり踊る。早口言葉を言う者は前へ出てセンターへ。

亜美 生麦、生米、生卵。生麦、生米、生卵。イエー、

亜美、戻り、男が出てくる。

男 ニヤ、ンコ 子ニヤ、ンコ 孫ニヤ、ンコ 子まじ ひまじにやんきも……ぐ、

男、戻り、司が出てくる。

司 李も桃も桃のうち、桃も李も桃のうち、やったぜ、

司、戻り、男が出てくる。

男 この釘抜きたと釘引き抜まじく、あの釘抜きでもくまぬきぬき……ウオ、

男、戻り、高太郎が出てくる。

高太郎 カエル、ヒヨコ、ヒヨコ、ヒヨコ、ヒヨコ、合わせ、ヒヨコ、ヒヨコ、ヒヨコ、ヒヨコ、ヤ、

高太郎、戻り、男が出てくる。

男 隣の竹垣 竹たてかけた 向、隣の竹垣 たてたけたて……イエー、

音、ヒタリと止まって、男以外、全員素になり、

全員 イエーじゃねーよ。

司 アホか。つも言えてないじゃないか。

高太郎 それでよく役者がつとまるな。

亜美 アッハ、ハ、まいったか、お姫様は返してもらつからね、

男 待て、まだ勝負はついていないぞ、姫を返してほしくば、この魔界の女王と勝負して勝つてからだ……

女 誰が魔界の女王だコラ、

男 では姉さん、頼みます。

女 まかしときな。いいかい、私との勝負は、

男女 旗上げゲームだ、

男、袖へ旗を取りに行く。(上手の机に入れておいても良い)

女、その間にルール説明。

女 ルールは分かるわね？指示にしたがって旗を上げ下げするんだよ。指示は……姫に田
してもらいましょう。いいですか？

ちなえ もちろん。

男、旗を女に渡す。

女 そちらは誰がやるのかしら？

高太郎 私はこの手のゲームは苦手です。

亜美 ハイ、これは亜美ちゃんにまかせておま、

高太郎 自信あるんですか？

亜美 ブイ！！

高太郎 お願いします。

司 亜美ちゃん、くすぐりはいらなからね。

亜美 大丈夫だって、さあ、勝負、

女 先に3回ミスった方が負けよ、よーしスタート、

音楽。「旗上げゲーム」

ホイッスルにのってゲームが始まる。

ちなえ 赤、あげない。

2人赤を上げてしまっ。ブーという音。

男 あのー、そういうフレイントは2、3回ゲームをやって盛り上がりしてからにしても
られないでしょうか。

ちなえ まあまあ。次はちゃんとやるから。とにかく2人ともミスね。じゃ続けて2ゲ
ーム目。いつてみよう、

再び音楽。

ちなえ 赤あげて。白あげて。赤あげないで。白あげない。

女、白をあげる。ブーという音。

男 ツーミス。あとミスでゲームオーバーです。まあ、3ゲーム目、どうぞ、...

再び音楽。

ちなえ 赤あげて。白あげて。赤あげて。白あげないで。赤あげない。

2人、合っている

男 OK、。

全員、深いため息をつきつつ、拍手。

男 では続きをどうぞ、。

ちなえ 赤あげて。白あげて。赤あげないで。白あげて。白あげないで赤あげない。

女、赤をあげる。フーという音。

女 しまったあ、。

男 ゲームセット、。フーという音、。

亜美 やったね、。

亜美、同や高太郎と手を合わせて喜ぶ。

司 しかしお前らどうでも良いけど自分の得意なもので勝負しろよ。自分から挑んで負けてどうする。

高太郎 さ、約束です。姫を、いえ、ちなえ君を返してもらいましょうか。

女 んー。そうしてあげたいのはやまやまなんですけど、前のチャンネルではソッチが負けてるから、これでチヤクコことよ。

高太郎 そんな、。

男 さあ、ここが問題です。これに正解すれば本当に姫をお返します。

高太郎 ……いいでしょう。

男 ちなみに足のサイズは何センチでしょうーか。

女 A、96センチ。B、32センチ。C、23センチ。

高太郎 むむむむむ……。

司 先生、なぜ悩むんです。

女 分かりにくい場合は、

女、両手でスキ間を作って

女 11のくらいが30センチと考えれば目安となるでしょう。

司 先生、。

高太郎 Bです！
女 ブッブー。
男 あんたの物の感覚はどうなってるんだ！？とりあえず不正解。したがってちなえさんのお返しは「ふ」をせしていただきます。
女 さあ娘、大人しくさらわれていただきますよ……う……。

ちなえ、怖い顔で高太郎を三つんでいる。

女 あ、あの……。
ちなえ 早くさらって行きなさい。私が切れる前に。
女 は、はい！！

男、女、ちなえの両わきに来る。ちなえ、女と男の腕を力強く持つ。高太郎を睨みながら。

ちなえ たーすーけーてー。つーれーさーらーれーるー。たーすーけーてー。

ちなえ、ズルズルと女と男を引き連れて去って行く。残された3人、口をきいてガツタリする。

司 こ、こえー。
亜美 怖かったよー。怖かったよー。
司 おー、よしよし。怖かったね。もう大丈夫だからね。
高太郎 ちなみに君は妖怪ですか。
司 先生が悪いんですよーが。頑張れば頑張るほど怒らせてどうするんです。
高太郎 ……反省。

うなだれる高太郎。

高太郎 私はとにかく話を聞いてほしいんです。だから焦っているんです。

高太郎、ハッという顔をする。

高太郎 そうですね……。ちなえ君にこんな気持ちにさせていたんですね。

3人、沈黙。

司 ちなみに、探しに行きますか？

亜美　ちよつと待つて。もう少し落ち着いてからの方がいいんじゃない？体力的にも、精神的にも。

高太郎　そうですね…。

亜美　じゃあ小説の話の続き、聞かせてもらえますか？主人公が上京して、女の人だけが田舎に残されて、その後どうなったんですか？

高太郎　上京した青年はT.V.局で働きます。バラエティ番組のA.D.からスタートです。慣れない土地、慣れない環境でも夢を掴むために頑張って仕事をするんです。A.D.の仕事は過酷を極め、アパートへ戻れる日は週に一回くらいのもので、一日の睡眠時間は3・4時間。それでも青年は頑張り続けました。

亜美　体壊しちゃいそうですね。

高太郎　幸い青年の長所は体が強いことでした。ただ、青年の中で気掛かりなのは、あの日、駅のホームでした約束がなかなか守れないことでした。

亜美　約束？…あ、手紙を書くことやつ？

高太郎　そうです。ホロボロに疲れた体で青年は少しの空き時間に一文ずつ手紙を書いていきます。少しずつ。一文ずつ手紙を書いていきます。そうして出来た最初の手紙は、青年が上京してから半年の時間をかけて完成したのです。

女、手紙を持って登場。サズが入る。

音楽。 「 」

女　手紙、遅くなつてごめん。やつと送ることが出来ました。こつちの生活は分からないことだらけで大変です。A.D.に人権はありません。馬車馬のように働かされます。僕が知っているだけでも¹⁰人の人が辞めていきました。当然その分の仕事量がこつちに回ってくるので、今えらいことになっています。あ、でも大丈夫。知つてると思つけど、僕は体だけは丈夫だから。風邪もひいてないし、いたつて健康です。それに今残つているA.D.は僕と同じように何らかの夢を持つている奴らなので、そいつらと一緒に仕事できるのは楽しいです。こつちの「クイズポーン」は見ましたか？あの番組のタイムキーパー僕がやっています。今はバラエティ番組ばかりだけど、いつか報道に回つて世の中の真実を伝えていきたいと思つています。僕の近況はこんな感じですよ。よかつたら返事ください。たぶん、それが今の僕にとって何より元気の源になると思つています。

女のサズが消える。

亜美　仕事の合間をぬつて必死に書いた手紙なんでしょうね。

高太郎　そうですね。手紙の内容にはかなり気を遣いました。

司　当然彼女も手紙を返すんですよね？

高太郎　もちろんです。が、女性側の手紙の内容は小説には書きませんでした。

司　どうしてですか？

高太郎 この小説は私の気持ちをそそなえ君に届ける為のお話です。女性側の手紙の内容は私には分からないのです。私に分かるのは青年の気持ちだけです。

同 なるほど。

高太郎 しかし彼女は確実に返事を書きました。青年はその手紙に元気と力をもらい頑張ります。二通目の手紙は、それからさらに半年経ってからでした。

女に再びサズがつく。

女 久し振りです。お元気ですか？手紙だと何故か敬語になってしまいます。不思議なものです。僕は体は元気です。職場の皆も僕の健康さには呆れているくらいです。ただ、最近スラップといつか、悩んでいます。一体あとどれだけの時間を費やせば希望の番組を担当することが出来るのか。上京して一年。ずつと報道とは関係のない仕事をしていきます。もちろんバウエイヤだつて作り手は真剣です。楽しくないわけではありません。ただ僕には夢があるのです。上京したての頃、夢のおかげで逃げ出さずにすみましたが、今はその夢が僕を苦しめます。夢と現実のギャップが苦しいです。久し振りの手紙なのに愚痴ばかりでいぬんなぞい。そちらはどうですか？悩みはありませんか？良かったら返事ください。待っています。

女のサズが消える。

同 分かる。分かるな。夢と現実のギャップが自分を苦しめる。

亜美 つかりんにもそんなことあるの？

同 そりゃああるぞ。フライト持って仕事してれば誰だつてあると思うけど。こつゆつこつて男特有の感覚なわけじゃないよね？

亜美 うん。仕事つて限定しちやつとケースバイケースかな？人によると思う。

同 そんなもん？

高太郎 小説の中では、この手紙と手紙の間にサブストーリーが入るんです。お互いの生活が。電話で話をするシーンや、彼女が連休を利用して東京へ会いに行くシーンもあります。そして二通目の手紙からちよつと半年後、彼女に三通目の手紙が届きます。

女にサズがつく。

女 久し振りです。何か半年ごとに手紙を送ってますね。四通目の手紙はもう少し早く送れるといけど。僕は相変わらずバウエイヤ番組の制作です。でも、もう少ししたらADから一つ上ぐいけるかもしれません。今、企画会議に上がっているのは「都市伝説を解明せよ」という特番です。昔ながらの口裂け女やツチノコなんかを追ったりするチームもあるようです。僕が担当する都市伝説は、最近新宿で噂になっている魔女の存在です。噂ではお金を払えば願いの叶う「何か」をくれるらしいです。まだこれから情報を集めるの

で詳しい事は分らないけど、もし会えたらお金を払って、その願いの叶う何かとやらを買おうかなと思っっています。結果はまだ報告します。そちらは変わりありませんか？良かったら返事ください。待っています。

女のサスが消える。

亜美 魔女が出てくるんですか？
高太郎 はい。
亜美 急にファンタジーが入るんですね。
高太郎 さなえ君、ファンタジーが好きなんですよ。
亜美 へー。
高太郎 さあ、続きはまた後でどうこうにして、そろそろさなえ君を探しに行きましょう。
司 そうですね。
亜美 あ、その前に、つだけ。
高太郎 はい、何でしょう。
亜美 あまり彼女を追い詰めることのないように気を付けてくださいな。
高太郎 え？
亜美 さなえさんで、かなりキチンとした方ですよな。
高太郎 ……ええ。

亜美 家事なんかも完璧なんじゃないですか？
高太郎 そうですね。
亜美 お邪魔して部屋を見たとき思ったんです。仕事机は散らかっているのに、それ以外のところは掃除が行き届いていました。
高太郎 はい。
亜美 さなえさんはおそらく小さい頃から何でも器用にこなせるタイプだったと思います。そのことに自信とプライドを持っていたんじゃないでしょうか？だから、甘えることが苦手だったと思います。
高太郎 かもしれませんね。
亜美 でも、初めて甘えることのできる存在ができた。
司 先生ですね。
亜美 さなえさん今、頭の中がグチャグチャだと思います。甘えられる存在なのに、甘えられない。迷惑をかけたくないのに、実際には迷惑をかけてしまっている。それこそキツツの苦しみですよな。キチンとした性格で責任感の強い彼女はどんどん素直になれなくなるかもしれません。
高太郎 そんな。私は迷惑だなんて。むしろ悪いのは私の方です。
亜美 大切なのは…さなえさんがどう思っているかです。
高太郎 分かりました。…ありがとございます。
司 先生、行きましょう。

女 本気でヒンタをすれば相手の鼓膜が破れます。
男 ちなみにストマック、

ちなみに、お腹を出す。

女 その気になれば三人前だつてぐりりと食えます。この家庭のエンゲル係数上げまくり。
男 ちなみにグレイ、

ちなみに、両手の人差し指で頭を指す。

女 只今、思考停止中。
男 ちなみにボテ、

ちなみに、両腕を広げ、足を開いて大の字になる。

女 只今、お肌が下降中。

ちなみに、肌を気にする。

女 その他、様々な性格もインテグレートされており、通常モードのほかに乙女チックモード・セ
クシーモード・フツツンモード・落ち込みモード・とりあえず笑ってけモード・やせぐれモ
ードなどが自動的に目まぐるしく切り替わり、あなたを安心させません。
男 そして2009年バージョンの特別機能として目玉のちなみに、

ちなみに、片足をグッと前を出す。

女 とっても高性能なちなみに、は、ちなみに、の運動で、その凄さを発揮します。こ
うして手を叩くと、何と、

女、手を叩く。その瞬間、反復横跳びを始めるちなみに。

女 反復横跳びを始めるんです。

男 これは凄、

女 もう一度手を叩けば止まります。

男 ということは、手を叩くまでずっとやり続けるわけですね？

女 はい、そんなんです。

男 じゃあ、しばらく見てみましょう、

全員しばらくそなたえの反復横跳びを見ている。疲れてくるそなたえ。

男 気のせいかな、だいぶ動きが鈍くなってきましたね。
女 後が怖いので、この辺でやめときましよう。

女、手を叩く。

女 さあ、これだけの機能を兼ね備えた真柴そなたえスペシャルグレードマークII水陸両用タイプ2009年バージョン。実は大人気のため、一台しか提供できません。
男 当番組としても頑張ったのですが、一台確保するのがやっとでした。
女 お譲りは、ご連絡いただきました先着順というごことにさせていただきますので、ご了承下さい。ご連絡先は裏々シヨッピングおなじみのコナラ。

女、指で何もなし空間を左右させる。

女 深夜ですので、お掛け間違いのなによりようお願い致します。
男 それでは受付スタートです。
男女 裏々々、シヨッピング!!

男と女、片手を上げてガッツポーズ。

司 先生、電話、電話。
高太郎 ええ、電話なんて持ってませんよ。
司 だって早くしないと先着順ですよ。
高太郎 この辺に公衆電話はありませんかね？
亜美 これでもいいんじゃないですか？

亜美、リモコンを指差す。

高太郎 これですか？
亜美 トリップの世界なんですから、意思の力で何とかできますよ。
司 亜美ちゃん、ナイス。
亜美 ブイ。
高太郎 それでは早速…。

高太郎、リモコンで電話をかける。コール音。
女、携帯を取り出して出る。

女 はい、裏々シヨクピウタです。
高太郎 あ、あの、今やっていた真柴ちなえの2009年バージョンなのですか。
女 おめでとございませす、。あなたが一番です、。

携帯に聞き耳を立てていたら同と亜美、喜ぶ。

同 亜 やつたあ、。
高太郎 そ、それでは、ちなえ君を譲っていただけるのですね？
女 はい。裏々シヨクピウタとしては問題ございませす。
高太郎 と、申しますと？

女 2009年バージョンはとても高性能でございまして、厚生省より当商品に人権が与えら
れております。
同 厚生省？
亜美 人権？
女 ですので、お客様が希望されましても、商品の方でお客様を気に入るかどうかが……。
高太郎 そんな、。
男 それではお客様、どうぞこちらへ。

男、高太郎と同と亜美を誘導。6人が同じ空間になる。

ちなえの前に通される三人。

女 ちなえさん。こちらのお客様があなたを希望していますが、どうですか？

ちなえ、ジッと高太郎を見つめてその唇を向く。

女 お気に召まなうようですね。
高太郎 何が、何が気に入らないんですか？！

ちなえ、近くにいる男に耳打ちする。

男 何かイヤ、とのことです。
高太郎 あ、もっと具体的にお願いできませんか？

ちなえ、男に耳打ちする。

男 つまらない男だからイヤ、とのことです。
高太郎 つまらない？
同 先生はつまらなくないですよ、。オヤジギヤウデトツカ、トツカ、笑いをとれますよ、。

亜美 例えは？
司 :え？
亜美 例えは？
司 お前はどっちの味方なんだ。
亜男・女 例えは？
司 例えは、えーと、なんでしたっけ。先生、お願いします。
高太郎 え！
司 ほら、大爆笑だったギャグあるじゃないですか、
高太郎 大爆笑！
司 アしですよ。もう老若男女関係なく、ズバリ知らずの爆笑一発ギャグがあつたでしょ、
高太郎 司君、ハートル上げるのやめてもらえますか？
司 だって、つまらないって言われてるんですよ、男として悔しいじゃないですか、一発ギャグで爆笑とつて、見返してやってください、
高太郎 傷口が広がるだけのよつな気がするんですが…。
司 自分に自信を持って、こつゆつのは勢いが大切なんですから、どうかお前ら、これから先生が爆笑一発ギャグやるから、よく見てあげよ、先生、いきます。3・2・1、キーン、
高太郎、一発ギャグをやる。
一問。

男 ま、素人はこんなもんだよな。
司 やっぱりダメか。
高太郎 すいません司君。正解が分からないんですけど。

ちなえ、女に耳打ち。

女 ちなみに「茶番はおしまいですか」とのことです。
司 茶番は言い過ぎだろ、
高太郎 分かりました。笑わせます、楽しませてみせます、そうしたら私のところへ来てくれますか？私の話を聞いてくれますか？

ちなえ、頷き、女に耳打ち。

女 それではルールを説明します。今ここにあるもの全てを使用して構わないので、物ボケでちなえさんを楽しませてください。シヤツシはちなえさんが行い、楽しければ¹⁰ポイントつきます。ゲーム終了後、ポイントに応じたアピールタイムが与えられるので、その時に頑張つて想いをぶつけてください。
亜美 それって私たちがチャレンジしていいの？

司 亜美ちゃんて本道にやっしんジャーだよね。
女 はい。構いません。チームで楽しませてください。
亜美 よっしやー..
女 それではさなえさん、スタートの合図をお願いします。
さなえ わらわを楽しませるのじゃ。ヨーイ、スタート..

音楽。「Doop」
Doop 「Sidney Berlin Ragtime Band」
高太郎・司・亜美、三人で会場にあるもの全てを使用して物ボケをする。
お客さんの物を使っても良い。
やる前は「はし..」と皿を出してから物ボケする。
さなえ、楽しいものには¹⁰ポイント。つまらぬものは「次..」と指示する。
³⁰ポイントほど溜まったところで、男が「はし..」と手を上げる。

司 何でお前が参加するんだよ..

男、物ボケをする。

さなえ マイナス⁵⁰ポイント..
高・司・亜 くらゝ!!

高太郎 何でこっしやがるんですか..
亜美 あれだけ自信満々に出てきたのに...。
女 終了..
司 ええ..
女 トータルポイントは.....マイナス²⁰ポイントでした。

さなえ、女に耳打ち。

女 えー、さなえさんが頑張った「亜美として」⁴⁰ポイントくれました。ですので、最終ポイントは²⁰ポイントです。

亜美 ²⁰ポイントで何秒のアピールタイムがもらえるんですか？

女 ¹⁰ポイント 一秒に換算します。

高太郎 てことは一秒？何を話せというんです!?

女 じゃあ、やめますか？

高太郎 やります..やりますから..

司 先生、落ち着いてズバツと伝えてください。

高太郎 分かりました。

女 それでは「ちらぐとこそ。

女、ボックスの中に高太郎を誘導。中へ入る高太郎。ボックスの前の幕を持つ女

女
高太郎
女

さなえさんへのアピールタイム。制限時間は二秒です。『ヨイヤ、スタート』
さなえ君、あのですね。
終了。』

女、幕を降ろす。高太郎が見えなくなる。
女、幕を上げて高太郎を外に出す。

女

残念でした。これではさなえさんの気持ちは変わらないでしょう。せめてかくの注文でしたが、今回は「縁がなかった」ということで。

81

女、ボックスの中にさなえを入れようとする。

司

待ってください。』

音楽。JUJU「明日がくるなら」
さなえ、中へ入ろうとするが止まる。

司

さなえさん、これはちよつと酷過ぎるんじゃないですか？本当は先生の必死を伝わってきますよね？

さなえ、ゆっくり振り返り、司を見る。

司

確かに先生はさなえさんの話を聞かなくて寂しい思いをさせたかもしれません。さなえさんの誕生日や血液型を忘れてしまっていて悲しかったかもしれません。でも、だからってさなえさんが同じことをしてどうするんですか？先生は今でも変わらずさなえさんのことを想ってますよ。話を聞かなかったから、自分の誕生日を忘れていたからって先生の気持ちを疑うんですか？たったそれぐらいのことで信じられないのなら、それはさなえさんの我が儘じゃないですか？

82

それを聞いた亜美、司の前へ来る。

亜美

たったそれぐらいのことじゃないもん。

司

え？

亜美

我が儘じゃないもん。

司

亜美ちゃん…。

亜美

ねえ、つかり。もし私が同じことしてたら同じこと言っただけつかりにとつてたつたそれ

くらいのことで私にとってはとても大事なことでよ。ただそれくらいのことが私を
すく不安にさせるんだよ。トートの約束してなのに、つかり、急に仕事が入って参え
ない時あったよね。私だつて働いてるから、仕事も大切だつて分かつてる。だからちゃん
と我儘する。でもね、本当に私に会いたいと思つてるなら、一時間でも三十分でもいいか
ら時間作つてくれてもらいんじやないかな。とか思つちやつ自分もして……。でもそれ
じゃあつかり、に負担をかけちやつかなとか、でもそういう希望を言えるのが恋人なん
じやないかなとか、色々考えてると、どんどん不安になつてくる。まつとちなえさんも同
じなんだよ。つかり、ついでに楽しんで、すくすく楽しんで、でも楽しければ楽しい
ほど不安になる時もある。それを相談するのつて我が儘。不安ですつて、寂しいで
すつて、伝えるの我が儘。こんな想い、一人じゃ抱えきれないよ。一人じゃ抱えきれない
よ!!。それなのにそんなこと言つつかり、なんて……。そんなこと言つつかり、なんて……。
でもしゆき〜!!

83

亜美、同じ抱きついて泣く。
全員、ずつける。

高太郎
亜美
司

好きなんかい、
「コメ、ね、コメ、ね。痛かったでしょ、コメ、ね。
うっん、俺の方こそコメ、ね。不安だつたんだね、不安な思いをさせちやつたんだね、

亜美
司

寂しかったんだね、
寂ちかつたよ、
おう、よしよし。寂ちかつた、寂ちかつた。

司、亜美の頭を撫でる。
ちなえ、ゆっくり亜美に近づいていく。目の前まで来て

ちなえ
亜美
ちなえ

ありがとう。
あ……。いえ……。
私は……。

ちなえ、何かを言いかけてやめる。再びボックスの方へ移動する。

高太郎

ちなえ君……。

振り返らず、ボックスの中に入り鼻を下げる。
男と女、顔を見合わせ、高太郎へぐりと頭を下げて下手くばける。

高太郎

私はまた彼女を傷付けてしまったのでしょつか……。

84

同 先生、すみません。勝手なこと言つて。
高太郎 いえ。真剣に私たちのことを考えてくれている気持ちは伝わりましたから。
同 そう言つていただけると……。どうします？ちなえさんを遣いますか？
高太郎 いえ、問をあげた方がいいでしょう。その方がいいですよ。私にとつても彼女にとつても。
亜美 そうですね。……じゃあ小説の続きを聞かせてください。手紙では都市伝説の魔女に会いに行くとかつて書いてありましたよね？
高太郎 はい。青年は独自の調査、下調べの結果、伝説の魔女は実在することが分かったのです。魔女の家はごくごく普通のマンションの一室でした。

真ん中のドアより魔女(ちなえ)登場。下手のドアに座る。

男 (声のみ)失礼します。

男、下手より入ってくる。

男 はじめまして。ご連絡しました下つ口同の者です。

ちなえ、男の後ろを確認。

男 あ、大丈夫です。お約束通り一人で来ました。ご覧のとおり手ぶらです。カメラもホイ
スロトーターもありません。身体検査されますか？

ちなえ いえ……。結構です。

男 今日はありがとうございます。取材に応じていただいて。

ちなえ あなたの誠意ある対応に応えたまでです。

男 恐縮です。ただ……。取材というよりも個人的にお金してお話を伺いたかつたつてのが
本音ですかね。

ちなえ 話？

男 はい。あの……噂では願いを叶える「何か」を売つていらつしやるとか。

ちなえ、男の顔を黙つて見ている。

男 その……本当にそんなものつてあるんですか？

ちなえ あります。

男 え？

ちなえ あなたの言つているのは、おそらく口つてのことですね。

ちなえ、小さな木箱を取り出し、男に渡す。

木箱を開けて、中を確認する男。

男　　これは・・・針？
ちなえ　「代償の針」です。とても強い魔力を秘めています。
男　　代償の針・・・
ちなえ　この世の全て、万物は絶妙なバランスで成り立っています。光と闇。生と死。愛と欲。豊
かな人がいれば貧しい人がいるように。そのバランスを崩すことは誰にもできません。
男　　バランス、ですか。
ちなえ　例えば、願いや叶えたい夢を器だとしましょう。そしてその夢を叶える為の才能や努力、
意志の力を水とします。夢という器に対し、才能や努力という水を入れていき、やがて
器が水で満たされれば願いは叶う。この場合、夢の器と才能・努力の水が同じバランスの
中にあった、という事が出来ます。でも、
男　　でも？
ちなえ　どんなに努力しても、器が大き過ぎて満たす事ができないうちもあります。

男、無言で頷く。

ちなえ　それでも願いを叶えたい時にこれを使います。足りない水の量を自分の持っている
何かを代償として満たすのです。

男　　何かとは？
ちなえ　自分の持っている「何か」です。何でも構いません。願いを叶える為に必要な分だけの代
償であれば何でも。
男　　自分の持っているものなら何でも・・・。
ちなえ　自分の願いを叶えるのに、自分以外の力を借りるのであれば、それなりの代償を払え、
ということですよ。
男　　代償・・・。
ちなえ　叶えたい夢があるのですかね？
男　　・・・僕、小さい頃からTVの報道番組に参加するのが夢だったんです。頑張って勉強し
て大学に入って、やっとTV局に入ることが出来ました。でも希望の部署に入ることが出
来ずに時間だけが過ぎてしまいました。正直、焦ってるんです。田舎には待たせてる人も
いるし、この後、何をどう頑張れば願いを叶えられるんだろうって。だから・・・。
ちなえ　すぎるような思いでここ来た。

男、無言で頷く。

ちなえ　・・・購入されますか？
男　　え？
ちなえ　欲しいのであればお譲りしますよ。ですがタダというわけにはいきません。「代償の針」

男 　　が欲しいのであれば、それなりのお金をいただきますよ。「これもぐんぐんの」ですね。
ちなえ ……いくらですか？
ちなえ 　　噂を聞いてきたのではありませんか？

男、しばらく考える。やがて、ゆづくりとお金が入った封筒を取り出す。
ちなえに渡そうとする。

ちなえ 　　信じるんですか？私の話を。
男 ……嘘なんですとか？
ちなえ 　　聞いているのは私です。

男、封筒を下げる。片手には「代償の針」。片手には封筒。男、動かない。
ちなえ、男から「代償の針」を返してもらおうとした瞬間、封筒をちなえに渡す。

ちなえ 　　いいですね？

男、無言で頷く。

ちなえ 　　使い方は簡単です。叶えたい望みを頭に思い浮かべながら体のどこでも良いので針で刺

してください。

男 　　痛そうですね。
ちなえ 　　刺す前に差し出す代償を口頭で針に誓ってください。例えば、物を代償にするなら……「車を代償にします」と誓ってから針を刺すといった感じですよ。

男 　　差し出した代償が小さかったら？

ちなえ 　　代償を失うだけで願いは叶いません。…自分のどうしても成し遂げたい夢を実現させる代償に「それなり」のものしか差し出さないうもりですか？

男 ……いえ……。

ちなえ 　　気を付けてくださいね。「代償の針」の効果は一度きりですから。

男 　　分かりました。

男の携帯が鳴る。ちなえ、出るようにすすめる。

男 　　はい。あ、お久しぶりです。鼻慣れない番号だったのでビックリしました。どうしたんですか？…え？…いつですか？…それで容態は？…そんな…。あの、今からすぐ行きます。どこの病院ですか？…ええ、分かります。はい、はい。…はい、分かりました。すぐ行きます！！

男、電話を切る。

男 すみません、もう行きます。
ちなえ どうされました？
男 田舎の彼女が倒れたって…。よく分からないうですけど、何か病気がしじです。意識もなくて…。急いで行かないと。この間空いたとき、何ともなかったのに…。全然元気だったのに、何ともなかったのに。
ちなえ しっかりなさう。そんな状態で外へ出たら、事故ってあなたまで入院ってことになりま
すよ。
男 はい…ですが…。

ちなえ、左手を男の額に当て、目をこらる。

男 え？

ちなえ、ゆっくり目を開ける。

ちなえ 車で行きましょう。私のを使ってください。

男 本当ですか？！ 助かります。

ちなえ と、言っても、私も一緒にいきますけど。

男 来てくれるんですか？でも、どうして…。

ちなえ 「代償の針」を買っていただいた大切なお客様ですからね。ウチはアフターフォローに力を入れているんですよ。

男 ありがとうございます。

ちなえ さ、行きましょう。

二人、下まへ去る。今まで二人がいたところのサスは消える。

亜美 えー、まだ試練があるんですか？

高太郎 あるんです。最後の最後に究極の試練が。

司 究極の試練ですか。

高太郎 私はそれを書くことによって、最大の気持ちをちなえ君に伝えようとしたんです。

高太郎、客席のほうへ向き、

高太郎 青年は車を飛ばしました。イヤな考えが頭の中に浮かんで必死にそれを振り払います。体中から血の気が失せるような感覚と同時に、顔だけが熱い不快な感覚を味わいながら運転を続けます。普段は存在すら信じていない神に彼女の無事をお願いしながら運転を続けます。青年が彼女の眠る病室へ辿り着いたのは、連絡をもらってから四時

間後のことでした。

下手にサスがつか。ソファには女が寝ている。

魔術師が女の額に手を当てている。

男が入ってくる。

音楽。ベット・ミッドラー「The Rose」

ちなえ 先生からの病状説明は終わったの？

男 はい。

ちなえ ご家族の方は？

男 彼女の荷物を取りに家へ戻るそうです。その間、見ていてくれて

ちなえ ……そう。

男、女の隣に来て座る。愛おしそうに乱れた髪を直してやる男。

男 脳に腫瘍ができていらっしゃるらしいんです。大きさは小指の爪ほどの大きさで、それが圧迫して身体に信号を送れないので。手術しても成功する確率は低いし、うまくいっても半身麻痺は残るだろうって言われました。

シーンとした間。

男 ……あの…魔法で何とかなったり…。

ちなえ すると思っ？

男 しませんよね。…一緒に来てくれたから、もしかしてっ？、ちよこご期待してたもので。

ちなえ 変に期待させてしまったのなら謝ります。

男 いえ、こちらこそすみません。感謝してるんです、本当。車まで出していただいて。

ちなえ 魔女として、力の及ばない現場にいるのはいつも心苦しいものです。

男 ……そうですよね。

ちなえ ですが、彼女を助ける方法はありますよ。

男 え？

ちなえ 魔力で直接彼女の病気を治すことはできません。でも、あなたはそれを可能にするものを持っているじゃありませんか。

男、ゆつくりと木箱を出す。

男 「代償の針」ですか？

ちなえ、頷く。

男 でも、彼女を助けるためにどれくらいの代償を払えばいいのかわかりません。
さなえ だから三つ来たのです。

さなえ、水晶を取り出す。

さなえ 覗いてみてください。あなたの未来を見せて差し上げます。
男 え？！

男、さなえの顔を見た後、水晶を見る。

男 これは？！
さなえ 五年後のあなたです。部署異動は二年後ですね。それから三年間、報道番組に携わり、そして五年後、常に真実を追求する番組作りが評価され、報道番組界のカリスマにまで登り詰めることができます。

男 僕がですか？！でも…！

男、木箱をさなえに戻せる。

さなえ 必要ないんですよ。あなたがそれを使って願おうとしたことは。

男 そうなんですか…。

さなえ このまま努力を続けさえすれば、小さい頃からの夢を実現させることができます。それも大成功という形で。どうでしょう。おおよそ²⁰数年の努力の結実といったところでしょうか？

男 はい。

男、ハッとさなえを見る。頷くさなえ。

さなえ 十分な代償だと思いませんか？

男 ……そうですね。

さなえ 後はあなたが決めることです。私、下で飲み物でも買ってきますね。

さなえ、センターにはける。

男、木箱を見て、女の傍へ行く。

男 ……後は僕が決めること、か…。

男、女の頭を撫でてやる。サスが消える。

司 なるほど、究極の選択ですね。

亜美 えー^{!?} どうして^{!?} 普通に彼女を助けるでしょ？

司 ²⁰ 数年の努力だよ？ しかも大成功なんだよ？

亜美 じゃあつかりなただらどつするの？

司 そりゃあ、もちろん亜美ちゃんを助けるぞ。

亜美 ホントに^{!?} ホントに^{!?}

司 もちろん。今俺が言ったのは、主人公の青年の気持ちになって、仕事人間だったららの話だよ。例えば…。

高太郎 私のような、ですか？

司 先生…。

高太郎 その通りですから。

亜美 どちらを選ぶんですか？ 仕事ですか？ 彼女ですか？

高太郎 努力は言い換えると我慢という言葉にすることもできます。夢を実現させるために遊びたいことを我慢して、嫌なことを我慢して、痛いことを我慢して、しんどいことを我慢して、つらいことを我慢し続けるのです。リアルに想像してみてください。²⁰ 数年の我慢をあつさり放棄することができませんか？

亜美、目を伏せる。

高太郎 それはある意味、自分の人生を否定することと同じです。人の命の尊さはもちろんですが、夢を持ち、実現させるといつ行為も、また同じように尊いものなのです。

亜美 そうかもしれないけど…。

高太郎 でも…。

亜美 え？

高太郎 それでも答えは決まっているんですけどね。

司 先生。

高太郎 ようやくですが、さなえ君が何故この小説にトリップしたのか分かったような気がします。

司 行きますか？

高太郎 行きましょつ。

高太郎、客席にリモコンを向ける。ピツという音。

台車が下手より登場。台車の上には椅子・壁が乗っている。壁は白く薄い布で作られている。バックライトを当てれば透けるくらいのもので、椅子にはさなえが座っていて、シルエトになる。

可能であればボイスエンジヤーを使用。

台車とともに男と女が入ってくる。

女 さあ本日最後のコーナーとなりました。嫁・姑問題からお肌の悩み、病気・事故・怪我の対処方法から夕飯の献立まで、悩みはアルツとおまかせ。相談しましもう、そつしましもう。恋人・旦那の愚痴まで聞いちゃいます。その名も「悩んでないで」

男・女 言っちゃいなー！

女 の、コーナーです。

男、パチパチと拍手。

女 えー、今日の相談者は真柴さなえさん。女性。独身。なんでも三年も同棲している彼氏について何かあるようなのですが、一体どんなことがあったのでしょうか。早速聞いてみましょう。さなえさん。

さなえ あ、それ本名ですけど…。

女 ああ！

さなえ いや、「ああ」って…。

女 大丈夫です。放送時には名前に「ー」つて入れますから。

さなえ はあ…。

女 それで、さなえさん。三年間同棲している彼氏について、愚痴や悩みがあるとのことですが？

さなえ はい…その…。

高太郎 さなえ君「さなえ君、あのですね」

亜美 待つてください。

高太郎 え？

亜美 さなえさん、さつきつかりんに言われたことで少し心を開いたのかもかもしれません。多分、これはさなえさんからの大切なメッセージです。

高太郎 メッセージ…。

女 ……続けてください。

音楽。 Dreams Come True 「未来予想図Ⅱ」

さなえ 彼は幾つも賞を取っている売れっ子の小説家で、私は彼の才能に惹かれました。一緒に住もうと言ってくれた時はすごく嬉しくて、即答でOKしちゃいました。その時はまだ実家に住んでいて、両親がビックリしたのを感じています。正直、少し反対されたんですが、説得を続けて…私の意志が固いことを知ると、分かってくれました。…一緒に暮らし始めて一年は本当に幸せでした。彼が私を想っていてくれるのが分かりました。何も言わなくても、彼が何を考えているのか分かったんです。本当に以心伝心であるんだなって思いました。…違和感を感じ始めたのは一年と少し経ってからでした。ちょっとした言葉がなくなってきたんです。

女　ちよつとした言葉……どうして。

ちなえ　例えば「おはよう」とか「おやすみ」とか「いただきます」「ちよつとちよ」と……。挨拶がほとんどですね。……あとは……「ありがとう」。

女　ありがとうがなくなったのですか？

ちなえ　はい。ほとんどが「っん」だけで片付けられてしまいました。

女　それはひどい。

ちなえ　あとは会話がなくなる一方で、多少会話があつたとしても仕事の打ち合わせ的なものが少しかったです。彼の無言が私を不安にさせて、たまたま話す彼の言葉が私を救ってくれました。もう、彼が何を考えているのかわかりません。自信がなりました。この二年間、七百日、毎日寝る前に思うことがあります。

女　それは？

ちなえ　私という存在は彼にとって何なんだろって……。恋人なのか、家政婦なのか、それとも他の何かなのか。私と彼の関係を確立させるものが何もなしから分らなくて。毎晩、毎晩、ずっと同じことを考えていました。ただ、彼はもう私の為、小説を書いてくれることはなつたらうなと思って思いました。私は彼の為、何かをするのは好きです。でも、図々しいかもしれないですけど、尽くしたら尽くしてもらいたつて思います。ほんのちよつとしたことばいなんです。……私という存在をキチンと認めて欲しいんです。

女　なるほど……。大変だつたんですね。この二年間、ずっと耐えてきたんですね。

男　けなげですねー。

女　ちあ、ちなえさんの心の叫びはあの人へ届いたのでしょつか。ここはズグシヤルゲストの登場です。

男　本日のズグシヤルゲストは小説家の法上院高太郎さんです。

高太郎・司・亜美、舞台中央へ移動。

女　ちなえさん、どうされますか？会いますか？このままお引取り願いますか？決めるのはあなたです。

ちなえのシルエットが消え、ゆつくりとちなえが現れる。
高太郎の前へ来るちなえ。

女　彼女の言葉は届きましたか？

高太郎　……ええ。

女　何か言葉をかけてあげてください。

高太郎　はい……。その……。ちなえ君。えーと、あの……。

女　何でもいいんです。言葉をかけてあげてください。

高太郎　はい。……えーと、……その……皮肉なものです。小説家でありながら言葉が出てきません。……司君。

同 はい。

高太郎 申し訳ないのですが、言葉のきつかけをいただけませんか。

同 言葉のきつかけですか。えー。そうですね……。ちなえさん。

ちなえ 何？

同 クイズ、出してほしいですか？

ちなえ え？

同 クイズです。先生に関するクイズ。

ちなえ ……ええ。

同 第一問。先生の誕生日はいつ？

ちなえ ……11月29日。

同 正解です。第二問。先生の血液型は何？

ちなえ ……O型。

同 正解です。第三問。先生の好きな食べ物は何？

ちなえ オムライス。

同 正解です。では最後の問題。最近先生が小説3本とエッセイを書き上げました。こんなに
　　気に仕事を終わらせたのは何故でしょうか。

ちなえ え？

同 何故こんなにギョッと仕事を詰め込んだのでしょうか。ちなみに、今月末から約一ヶ月間
　　は休みますと言われております。

ちなえ、考える。

ちなえ ……分からない。何故？

同 ちなえさん、聞く相手が違いますよ。

ちなえ、高太郎の方を向き、

ちなえ ……何故なんですか？

高太郎、司の方を見る。無言で頷く。

高太郎 記念日だからです。今月の²⁶日は一緒に暮らし始めて三年目なんですよ。忘れてまし
　　た？

ちなえ、首を振る。

高太郎 ちなえ君。不安な思い、寂しい思いをさせてしまったことは本当に申し訳ないと思っ
　　ています。あなたのために頑張ったつもりの仕事が、あなたを苦しめていたのですね。

ちなえ 記念日…覚えてたんだ。
高太郎 当たり前じゃないですか。
ちなえ 私の誕生日は忘れてたくせじ。
高太郎 それはその…。すみません。今回のことで自分がとれただけ無神経だったか反省しました。今後はこのようなことのないように気を付けます。

高太郎、小箱を取り出して

高太郎 こんなタイミングで出すのはスルイかもしれませんが…。ちなえ君と私の関係を確立させる証です。

ちなえ、高太郎をふつと見る。
暫く考えた後、高太郎の方へ近付こうとした時、

男 ふざけるなよ。

後方にした男がホッリと呟く。ちなえ、男を見る。
音楽。 「 」

男 なんだよそれ「ふざけるなよ」

男、前へ出てきて、高太郎の胸倉を掴む。

男 ふざけるなよ「七百日だぞ」^{!!}七百日間、不安や寂しさに耐えて、耐えて耐えて、ずっと我慢して耐えてきたんだぞ「アンタなりにこの人の為にとやってきただと」^{!!}この人の気持ちを考えてないなら、そんなの単にアンタの自己満足だろ」^{!!}

男、高太郎の小箱を持っている腕を掴んで

男 こんなもので水に流せると思っただろうか？アンタのしてきたことはそんなに軽いことじゃないだろう。こんなものじゃ償えない。こんなものじゃ報われない。

司 何言ってるんだよ。これは二人の問題だろ？

男 僕は^{!!}……彼女を助ける為に代償を払った。²⁰数年の過去と願ひ続けた未来を捨てた。何かを得る為には何かを失わないといけない。なあ、そうだろう？アンタは一度この人を失った。またこの人を得たいと願うならアンタは何を代償にする？

男、木箱を取り出し、高太郎に差し出す。

男 痛みを伴わない反省は同じことを繰り返す。絶対だ。……さあ、アノタの覚悟を見せてくれ。この人を得る為にあ、アタは何を代償にするか。

高太郎 さすが私の書いた物語の登場人物ですね。厳しいトコロを突いてきます。……痛みの伴わない反省は同じことを繰り返す、ですか。その通りかもしれませんが。

高太郎、男の顔を正面から見る。

高太郎 勿論、中途半端な気持ちや覚悟で書いた物語ではありませんよ。あなたは、私なんですから。

高太郎、木箱から代償の針を出す。

高太郎 さなえ君を得る為に私が代償にするのは……物語を生み出すこの右手です。

司 先生？

司、高太郎を止めようとする。さなえ、亜美、女、驚く。男はジッと高太郎を見ている。

高太郎 司君、私はね、自分の書いた作品に嘘を付く訳にはいけません。特にこの作品に嘘を付く訳にはいけません。私が今ここで覚悟を見せるのが「右手を代償にする」

とが、さなえ君への気持ちを示す唯一の方法であるなら、私は覚悟を決めなくてはなりません。それが私の……私の責任なんです。」

高太郎、ゆっくり針を右手に向ける。刺そうとした瞬間、

さなえ ……待つて。」

しかし、間に合わず、右手に針を刺す高太郎。キーン、「どいつ短じ耳障りな音。瞬明かりが変になる。痛みに右手を抱えてつまずく高太郎。

さなえ そんな……。

高太郎 私の覚悟は見ていただけましたか？

男、木箱と代償の針を回収する。高太郎、顔を上げ男を見る。

高太郎、さなえを見て、

高太郎 さなえ君、本当に申し訳ありませんでした。

ちなえ、高太郎のところに走り寄る。

ちなえ どうしてこんなことしたんですか、「だって私は」
高太郎 ちなえ君に許しを乞うためです。
ちなえ 許し？
高太郎 あなたに長い間寂しし思いをさせてしまいました。その罪を償う為です。
ちなえ そんな、だって私は「」

ひどい顔をするちなえ。

ちなえ ……私のせいですか？

ちなえ、後ずさりする。

ちなえ そんな……。違っのに。……寂しかったから少し困らせてやるって……。こんなことになるなんて思わなくて。コメンなさい。私、私のせいで……。違っのに。こんなつもりじゃなかったのに。こんなつもりじゃなかったのに、

高太郎 ちなえ君、

亜美 ちなえさん、落ち着いてください。「これはあなたのせいじゃありません」

高太郎 そうです。「これは私の償いなんです」

ちなえ 「コメンなさい」「コメンなさい」「信じて、こんなつもりじゃなかったんです」

高太郎 分かってます。分かってますから、

ちなえ 「コメンなさい」「もっと早く素直にならなければよかったのに、私が悪いんです。私のせいです」「……そうよ……私のせいよ。こんな私なんて…私なんて」

亜美 ちなえさん、駄目、

ちなえ 私なんていなくなればいいんだ「」

その瞬間、全てのライトが消える。

暗闇の中、ザーという砂嵐の音。次第に消える。明かりがつく。高太郎、司、亜美の3人が寝ている。やがて3人が起きる。

高太郎 ニは……私の書斎。

司 現実の世界に戻ってきたんですか？

亜美 ちなえさんの精神の爆発に弾き飛ばされたんだと思う。

高太郎 ちなえ君の身体がありません、

司 亜美ちゃん、これ、どういふこと？

亜美 分かんない。でも、ちなえさんはトリップの世界から覚めていないことだけは確かだけど……まさか……。

司 え？
亜美 実体ごとトリップの世界に行ってしまったのかも。
司 実体ごと？
高太郎 本当ですか？
亜美 だから、確実なことは分かりませんって、でも、考えられるのはそれしかないんだもん。
高太郎 もう一度行つてきます。
亜美 え？
高太郎 もう一度、行つてきます。
亜美 精神が肉体に与える影響を理解してますか？あなた、もう本当に小説が書けない体なんですよ？
高太郎 はい。
亜美 もう一度トリップして今度はどんなことが起こるか……。まして、今はさなえさんが私達を拒絶してるんです。……いえ、むしろ。
高太郎 ……何ですか？
亜美 自分の殻に閉じこもっていると云う方が正しいかもしれません。
高太郎 では尚更行かなければなりませんね。
亜美 行つてどうやって助けるつもりですか？今のさなえさんは何を言われても苦痛だけなんですよ？
高太郎 かもしれませんね。ですからもう一度……。もう一度初めからやり直してみます。私

111

の素直な気持ちを伝えることから始めようと思います。
亜美 覚悟、ですか？
高太郎 ええ。……私は今まで自分のことを何でも出来る人間だと思っていました。自分の周りで起る出来事は全て自分で解決出来る。だから、周りの人達を支えることが出来ると思っていました。しかし、そんなことはありませんでした。今回の件、私は何一つ自分でやったことはありません。亜美さんの力を借りなければトリップの世界へ行くことも出来ませんでしたし、司君の力を借りなければさなえ君と話をすることも出来ませんでした。そして何より、今までの生活だってさなえ君の力無しには有り得なかったのです。私はとんだ思い上がり野郎です。ですが、終わりにするわけにはいきません。情けない自分を認めて、情けない自分のまま、もう一度さなえ君とやり直したいと思います。そして努力していきたいと思います。それが私の覚悟です。
司 先生。
高太郎 司君。助かりました。
司 待ってます。ここから先は、俺らの出番はありそうにないですから。
高太郎 ありがとう。
司 絶対、さなえさんと一緒に帰ってきてくださいね。
高太郎 ええ。
亜美 一度行ってますから、トリップの世界は頭に思い描けますよね？
高太郎 大丈夫です。

112

亜美

いきますよ。

亜美、5円玉を取り出し、高太郎に催眠術をかけ始める。動きのみ。セリフなし。次第に暗くなる。暗転になる前に下手のみにサズが入る。

ソファに寝ている女。その横に男がいる。小説の中のストーリーへの続き。

音楽。Celine Dion「A New Day Has Come」

男

後は僕が決めること、か……。

男、女をジッと見る。

男

そんなの決まってるよな。

男、本箱から代償の針を取り出す。

男

……彼女を助けてください。僕の成功する未来を代償にします。

男、右手で左手を刺す。痛みにつまずく男。

その姿は未来を諦めて泣いているようにも見える。

上手にサズ。高太郎がいる。男はつまずくまま。

男

……やりすぎたとは思ってないからな。

高太郎

分かっています。

女、ゆっくり起き上がる。

女

ありがとう。

男

……うん。

女

後悔してる？

男

聞くなよ、そんなこと。

女

ゴメン。

男

……してないよ。

女

え？

男

後悔なんかしてない。また新しい夢、探すからさ。

女

うん。……ありがとう。

男

……うん。

男、女、高太郎の前へ。

男 アンタの覚悟はを見せてもらった。でも……僕もこんなことになるとは思わなかったんだ。
高太郎 あなたの所為ではありませんよ。

女、高太郎の前に来る。

女 あ、ひとつだけいいですか？

高太郎 何でしょう？

女 確かに覚悟はを見せてもらいました。でも、その先は考えてますか？

高太郎 その先、ですか？

女 私たちの物語はここでお終いです。この人が自分の未来を代償にして私を助けてくれました。そして、私が目覚めて愛を確かめ合ってお終いです。でも、その先は？その後私たちがどうなったかを考えたことはありませんか？

高太郎 ……いえ。

女 もしかしたら私たちはこの先、何らかの理由で別れるかもしれませんが、今、この場では代償を払ってでも助けたいと思う相手でも先の方は分かりません。だって、

高太郎 愛は確実に冷めていくから、ですか？

女 その時が来た時に代償を払った方はどんな気持ちになるでしょうか？大きな大きな代償を払った結末が別れたらとして、相手を恨むでしょうか？

高太郎 それは……。

女 私は仮に立場が逆だったとしても、やはり代償を払ってこの人を助けたと思います。そして、結果が別れることになったとしても決して恨むことは無いと思います。相手の気持ちがあつてもあれ少なくとも私はこの人を愛した、という事には変わりはありません。

高太郎 愛は決して消えることは無いから、ですね？

女 私はね、幸せなんです。何も言わないこの人が、私と同じ気持ちでいてくれるんだなつて分かることが、何よりも嬉しくて、何よりも幸せなんです。

高太郎、ニツクリ笑つて

高太郎 そうですか。

女、男の後ろに移動する。

男、何かを考えているが、意を決したように顔を高太郎に向けて。

男 どうか、お母さんを。

高太郎 お母さん？

女 ええ。私達の物語を作ってくれたあなたはお父さんで、でも、あの人がいなければ物語は生まれなかったから、あの人は私達のお母さんなんです。

高太郎 なるほど。
男 お母さんは今、一人ぼっちでうつすくまってる。何も見ようとしなくて、何も聞こうとしなくて、ただ、ずっと心の中で自分を責めてる。
高太郎 そうですか。
女 助けられますか？
高太郎 その為に来たんです。さなえ君は今、どこに？
女 砂嵐の世界。
高太郎 砂嵐の世界？
女 そのリモコンの早送りをずっと押し続けてください。全てが終わって何も無くなります。それが砂嵐の世界。
高太郎 何も無い世界……。そこにさなえ君が？

117

男、女、肯く。

高太郎 分かりました。

高太郎、センターに。リモコンを客席に向けてボタンを押す。
舞台、センターのみさス。暗くなつてから男と女、下手くばける。
キユルキユルという早送りの音。

キユルキユルという音が小さくなると同時にザーという砂嵐の音。砂嵐の音も次第にフェイドアウト。

高太郎の後ろに沢山の大きな黒い布で覆われたさなえの姿が浮かび上がる。
さなえ、目を伏せ、うつすくまっている。

音楽。Kelly Clarkson 「Because Of You」

高太郎 さなえ君。覚えていますか？初めてあなたが私に会いに来た日のことを。

高太郎、さなえの隣に来て座る。

高太郎 たまたま大学時代に応募した小説が金賞をとり、大学卒業と同時に小説家として本格的にデビューしました。しかしプロとしてのプレッシャーからあまり良い作品を書くことが出来ませんでした。なかなか注目を集められなかった私は焦り、考えました。何か大きな賞を獲れば知名度が上がり、本も売れるんじゃないかと。それからは賞を獲るための作品作りです。審査員が誰で、どんな作風が好きなのかを調べて、小説を書きました。……そんな作品が面白いはずありません。私は本当に自信を失っていたんです。

高太郎、一枚黒い布を取る。

118

高太郎

あなたが私の前に現われたのはそんな時です。「」の作品に感動しました」と大学時代に書いた小説を持って来ましたね。自信をなくしていた私には「」の上なく嬉しい言葉でした。その後、「先生の作品作りのお手伝いをさせてください」とくるとは思いませんでしたが……。

高太郎、一枚黒い布を取る。

高太郎

それから2人でいろんな作品を作りましたね。アイデアが思いつくと直ぐにあなたに話しました。どんな物語でもあなたは真剣に聞いてくれました。ダメ出しは厳しいものですが、でも必ず最後には「さすが先生。面白いお話ですね」と言ってくれましたね。私はあなたのその言葉が聞きたくて、あなたの笑った顔が見たくて、沢山、沢山アイデアを考えました。……もう、賞を獲得するための作品作りは止めたんです。

119

高太郎、一枚黒い布を取る。

高太郎

さなえ君。私はあなたを思う気持ちはあの頃と何も変わっていません。いえ、むしろ、もっともっと強い気持ちを持っています。……ただ、目的や方法が間違っていました。

高太郎、指輪を取り出す。

高太郎

これだつてそうです。結婚が目的なわけじゃありません。私はただあなたを喜ばせ、ずっと一緒にいただけなんです。ですがさなえ君に寂しい思いをさせては意味がありませんよね。私は……私はあなたの隣りに居たいし、私の隣りにはあなたが居て欲しいんです。

高太郎、一枚黒い布を取る。さなえの体が現われる。

高太郎

笑ってください。どうか笑ってください。あなたの笑った顔が見たいんです。あなたを喜ばせたいんです。あなたを幸せにしたいんです。私は弱くて情けない男です。でも、あなたを幸せにする役だけは他の人に任せるわけにはいきません。私のすることであなただけが笑っていて、喜んでくれて、幸せになってくれたらそれが私の幸せなんです。私はあなたと幸せになりたいんです。他の誰もいない、あなたと一緒に幸せになりたいんです!!

120

さなえ、ゆっくり目を開ける。

さなえ

……どうして怒らないの？

高太郎

どうして怒るんですか？

さなえ

小説、書けなくなっちゃった。

高太郎

いいえ。大丈夫です。

ちなえ え？
高太郎 物語は私が作ります。小説は……あなたが書いてください。
ちなえ 私が？
高太郎 今までだつて似たようなものじゃないですか。それとも、もう作品作りは嫌になりましたか？

ちなえ、首を横に振る。

高太郎 ちなみに君。もう一度下手からやり直しましょう。私は、私の想いに努力することを誓いますから。
ちなえ でも、私、寂しがり屋だよ。
高太郎 知ってます。
ちなえ ヤキモチ焼きだし。
高太郎 知ってます。
ちなえ 怒りっぽいし。
高太郎 知ってます。
ちなえ まだ迷惑かけちゃつかもしれないし。
高太郎 それは私も同じです。でも、努力していきましょう。ですから、ちなえ君。
ちなえ でも私ワガママだし。要領悪いし。

高太郎 ちなみに君。
ちなえ キしると何するか分からないし。字だつて汚いし。役に立てないと思つし。
高太郎 ちなみに君。
ちなえ 世間知らずだし。性格も素直じゃないし。
高太郎 ちなみに君！
ちなえ 頭固いし、根暗だし、そもそも頭悪いし、それに、だつて、それに……。
高太郎 ちなみに！
ちなえ はい？
高太郎 全部 O K ！全部大丈夫 ！今言ったこと全部大丈夫です ！全部大丈夫ですから ！ですから ！
ちなえ ……はい。

高太郎、右手を差し出して

高太郎 ……一緒に帰りましょう。
ちなえ ……はい！！

ちなえ、高太郎の手を握る。

音楽。榎原敬之「どうしようもない僕に天使が降りてきた」

舞台明るくなる。上手に同じ俳優がいる。現実の世界へ。

二人、大喜びしながら高太郎達の元へ。祝福する。

高太郎が同じ事情を説明している様子。ちなみに仕事机に移動させ、イスに座らせる。

ちなみに、小説を書くついで。

男と女が入ってくる。二人は4人を嬉しそうに見つめている。

6人の嬉しそうな笑顔。

— 幕 —